

[成果情報名]黄色夏秋小ギク有望系統「長崎小ギク5号」の開花特性

[要約]有望系統「長崎小ギク5号」は自然開花期が7月下旬で、花色が黄の夏秋小ギクである。電照による5時間の暗期中断処理を行うと開花期を8月上旬に抑制でき、開花調節が可能である。

[キーワード]夏秋小ギク、黄色、開花抑制

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]花き

[分類]指導

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

本県において小ギクは低コストで導入しやすい品目として8月盆出荷を中心に新産地の育成に取り組み、この6カ年で作付面積が約1.7倍に増加している。しかし、小ギクは気象条件により開花期が左右されやすく、スポット的な最需要期出荷に計画的な出荷ができていない現状がある。

そこで、品質や草姿に優れ、電照による開花調節が可能な品種を育成し、需要期に安定出荷できる産地の拡大を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「長崎小ギク5号」は、本当センターで黄色夏秋小ギク品種「こがね」と赤色夏秋小ギク品種「長崎SRC1」との交配により得られた実生から2014年度に選抜された系統である。
2. 花色は黄(RHSカラーチャートYELLOW ORANGE GROUP 14-A)である。
3. 自然日長下において、4月上旬に定植し、摘心後整枝(3本/株)を行うと50%開花日は7月27日であり、対照品種「こがね」と比較すると14日遅い(表1)。
4. 4月下旬に定植し、定植～6月中旬まで電照による5時間の暗期中断処理を行うと、開花は8月上～中旬に抑制でき、到花日数は露地条件では52日、ビニールハウス条件では62日である。露地条件下の8月開花作型における到花日数は、「こがね」と比べると14日早い(表1)。
5. 露地栽培条件における切り花品質は、切り花長88.6cm、切り花重87.3gである。調整重は66.7gであり(表2)、県切り花標準出荷規格の最上位規格50gを越える。現地試験における切り花品質も同様である(表3)。
6. 8月出荷作型の施設栽培における密植条件下では切り花長は十分確保できるものの、有効枝数が少なくなり、切り花重は軽くなる(表2)。
7. フラワーフォーメーションは自然開花作型では1または3である。また、8月出荷作型において蛍光灯による電照処理を行ってもフラワーフォーメーションは1で、「こがね」と同等である(表2)。
8. 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝(無効側枝)の発生が少なく、「こがね」と同等である(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 2016年は5月上旬～8月中旬までの気温は6月下旬を除いて高く推移し、平年値との差は0.3～2.4℃である(データ略)。
2. 次年度より9月開花作型(白熱球による暗期中断処理)における開花特性を調査する予定である。
3. 県内産地における現地試験を自然開花および8月開花作型にて行う予定である。

[具体的データ]

表1 有望系統「長崎小ギク5号」および「こがね」の開花特性^z (2016年)

系統・品種名	開花作型 ^y	栽培条件	定植日 (月/日)	消灯日 (月/日)	50% 開花日 ^x (月/日)	到花日数 (月/日)	消灯時	
							草丈 (cm)	節数 (節)
長崎小ギク 5号	自然開花	露地	4/1	—	7/27	—	—	—
	8月	露地	4/22	6/17	8/8	52	57.3	31
	〃	ビニールハウス	4/27	6/15	8/16	62	—	—
こがね	自然開花	露地	4/1	—	7/13	—	—	—
	8月	露地	4/22	6/17	8/22	66	83.6	29.7

z) 試験場所は農林技術開発センター (標高 15m)

栽植方法は露地条件では畝幅 120cm、条間 40cm、株間 10cm の 2 条植え (12,000 本/10a)、

ビニールハウスでは畝幅 120cm、条間 12.5cm、株間 12.5cm の中抜き 4 条植え (18,000 本/10a)

y) 8月開花作型は蛍光球 (BIOTECHLIGHT 23W) で 5 時間 (22~3 時) の暗期中断処理を行った

x) 開花は最初の開花輪が満開となった時点

表2 有望系統「長崎小ギク5号」および「こがね」の切り花品質 (2016年)

系統・品種名	開花作型	栽培条件	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	有効枝数 ^z (本)	無効枝数 ^y (本)	節数 (節)	花径 (cm)	調整重 ^x (g)	FF ^w
長崎小ギク 5号	自然開花	露地	117.9	94.7	14.0	0.8	74.3	3.1	—	1 または 3
	8月	露地	88.6	87.3	21.2	0.3	67.5	2.9	66.7	1
	〃	ビニールハウス	114.7	62.5	9.7	0.0	67.0	3.3	40.5	1
こがね	自然開花	露地	91.2	51.5	11.2	0.8	38.8	3.8	—	1
	8月	露地	127.3	90.1	10.0	0.3	47.2	2.2	52.1	1 または 3

z) 切り花の先端から下方 30cm までに発生した花蕾のついた側枝

y) 切り花の先端から下方 30cm より下に発生した花蕾のついた側枝

x) 切り花を長さ 80cm に調整した後、有効側枝以外と下葉 20cm を除去して測定

w) FF: フラワーフォーメーション (図1 参照)

表3 現地試験における有望系統「長崎小ギク5号」の開花特性^z (2016年)

開花作型	栽培条件	定植日 (月/日)	開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	有効枝数 (本)	無効枝数 (本)	節数 (節)	花径 (cm)	調整重 (g)	FF
自然開花	露地	4/22	7/30	101.8	85.8	15.2	0.0	63.6	3.3	65.6	1 または 3

z) 試験場所は佐世保市露地圃場 (標高約 270m)、調査方法は表 2 に同じ



写真1 「長崎小ギク5号」の切り花



写真2 「長崎小ギク5号」の草姿

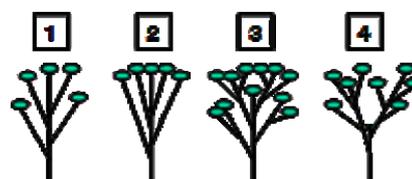


図1 小ギクのフラワーフォーメーション

[その他]

研究課題名: ながさきオリジナル新品種開発推進事業

予算区分: 県単

研究期間: 2015~2017 年度

研究担当者: 池森恵子、竹邊丞市